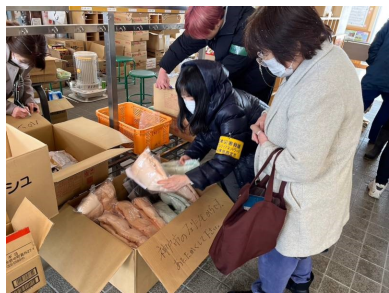


### 令和6年能登半島地震《支援活動報告》

#### 先遣隊【第一陣】1月6日～8日

1月1日に発生した能登半島地震では、翌2日に事務所で緊急会合を開きました。4日～8日の街頭募金と並行し、6日～8日の日程で理事および職員の計5名を先遣隊の第一陣として石川県に派遣することを決定しました。金沢駅までJRで行き、そこからレンタカーで能登半島に入りました。まず輪島市を目指したものの、北へ行けば行くほど至



るところで道路に陥没や隆起があり、また土砂崩れなどで通行止めの区間も多く、時間の制約などもあり後ろ髪を引かれる思いで断念し、能登半島の真ん中あたりに位置する七尾市や中能登町を中心に活動することにしました。避難所になっている小学校や中学校、一緒に行動していた大学教員からの情報をもとに高齢者の福祉施設などにも出向き、持参していった飲料水やカイロ、マフラーや靴下などの支援物資と西宮市内に本社を置く和菓子やさんから託されたお菓子をお届けしました。

これまでの被災地と比べての大きな違いは、道路事情が相当悪く、通行できる道路が限られることで各地で渋滞が発生し、人命の救助活動をはじめ道路修復や電気・通信などの復旧工事も困難を極めていたことかと思えます。また、広範囲に渡って断水が発生し、飲料水や生活用水などを求める人たちが至るところで見受けられました。避難所では外部からのボランティアの姿はほとんど見られず、地元の住民つまり被災者が避難所の運営を担っている印象を受けました。今後も長期的な視点で支援活動を継続していきたいと思えます。



#### - c o n t e n t s -

- P 1 . . . 令和6年能登半島地震《支援活動報告》先遣隊【第一陣】
- P 2 . . . 【第二陣】【第三陣】【街頭募金活動】企業様へのお礼
- P 3 . . . 第3回シンポジウム・能登半島地震活動報告会/Rijicho's column / 1.17事業
- P 4 . . . 第2回シンポジウム/真備訪問記
- P 5 . . . 乳幼児親子防災講座/Vision1.17/小学校防災訓練
- P 6 . . . 災害V養成講座/ココロープ/防災パーク/マップコンクール/久崎市/OOSシンポジウム
- P 7 . . . 大阪マラソン2024/Nうごき・Nごよみ
- P 8 . . . 会員・寄付者・募金者のみなさま/編集後記

## 【第二陣】1月15日～16日

1月15日～16日、第二陣として総勢5名で石川県に行きました。主な訪問先は七尾市や輪島市の中学校や高校、地区コミュニティセンターなど。前回の訪問時に避難所から要望いただいた子ども服などの物資を届けたり、避難所となっている中島小学校、輪島中学校、輪島高等学校の女子トイレへの「トイレ内生理用品無償提供用ディスペンサー」設置のお手伝い、各避難所で運営にあたっておられる方々に現在の状況やニーズなどをお聴きしました。



今回は道路状況によりたどり着けなかった輪島市を訪問することができましたが、地盤の隆起や亀裂、崩落あるいは土砂崩れなどにより、道路はまだまだ厳しい状況にあります。今回訪問した輪島市の中心部にある避難所では、食料を含め比較的物資は届くようになっていましたが、七尾市の避難所では水が使えず洗濯ができないことから、下着の類はいくらあっても足りない状況だとのこと。消防や自衛隊をはじめ、全国の自治体から応援の職員は現地に入っているが、外部からのボランティアはほとんど入っておらず、避難所の運営や高齢者の支援や心のケア、被災した家々の片づけなどを考えると早急に外部からのボランティアを受け入れる必要があると感じました。ただ、道路状況や積雪の影響、山が海に迫った地域での駐車場の確保など課題は山積みで、より深刻な状況であると思われます。

## 【第三陣】1月26日～28日

1月26日～28日の3日間、理事、事務局スタッフ、能登出身の西宮在住ボランティアのIさんの計5人で石川に向かいました。主な訪問先は、七尾市と輪島市の指定避難所や小学校、中学校、コミュニティセンター、認定こども園保育所、障がい者サポートハウスなど。支援物資(衣類、ボディケア用品、おむつ、生理用品)やお菓子(西宮の和菓子、神戸の洋菓子)等をお届けしたり、避難所の物資の搬送や段ボールハウス設営のお手伝いをしたり、この度同行したIさんの実家がある町野町も訪れました。



今後の課題点として、物資は一通り揃ってきているが、細かなニーズ(例えば野菜不足が深刻、子どもが菓子類ばかりを食べる)などへの対応が必要であること。水の問題が未だ解消されていない場所が多く、自衛隊のお風呂には毎日長蛇の列ができており、またお風呂に入っても洗濯ができないので新しい下着が必要であること。あと、子どもの心のケアと同時に、発災以来気を張って対応してきた大人の心のケアも必要であると感じました。

災害発生からひと月近くが経過し、避難所など被災者の方々を取り巻く環境が一日一日変化しています。

## 【街頭募金活動】

今回の地震ではまず街頭募金をと、阪神西宮駅前(4～5日)

JR西宮駅・阪急西宮北口駅(6～8日)で募金活動をしました。全日を通して学生たちが立ち、阪神・淡路大震災当時小中学生だった保護者とその子ども達も一緒に「能登半島地震の被災者のために募金をお願いします」と呼びかけました。

各箇所募金をくださった皆様、募金活動にご協力いただいた親子さん、学生さん、一般ボランティアの皆さん、どうもありがとうございました。



能登半島地震被災地支援活動においては企業様からも様々なかたちでご支援をいただいています。これまでの繋がりや現地訪問を通じ、被災地のニーズに応えることができるよう企業様と連携を取りながら支援を行っております。ご支援、ご寄付いただきました企業様に御礼申し上げます。

(株)フェリシモ：防寒具、衣類  
(有)山本商事：HOTPLUS・あったかフードボックス  
(株)高山堂：和菓子  
(株)新保哲也アトリエ：コロコロワッフル  
谷矢製餡(株)：戒金罽  
日本労働組合総連合会大阪府連合会  
：下着、衛生用品

## 第3回シンポジウム

1月20日（土）西宮市民会館にて「第3回シンポジウム」と「能登半島地震活動報告会」を行いました。

今回のシンポジウムは「被災地のリレー ～恩送りのできる社会～」をテーマに実施しました。第1部では、当団体副理事長の渥美公秀がコーディネーターとなり進行を担当。パネリストとして、新潟県刈羽村社会福祉協議会会長：武本純様、チーム北リアス現地事務所長：貫牛利一様、福知山公立大学地域経済学部准教授：大門大朗様にお越しいただき、被災地から被災地への支援の繋がりについて、被災当時、またその後の災害についての取り組みについてお話いただきました。

## 能登半島地震活動報告会

第2部では、1月1日に発災した能登半島地震の活動報告会を行いました。まずはじめにこの度の地震で失くられた方々に哀悼の意を表し黙祷を捧げ、その後第一次先遣隊(1/6～8)、第二次先遣隊(1/15～16)の現地の活動報告、街頭募金(1/4～8)の活動報告を行いました。現地ではいまだに物資の支援や水道が復旧していない地域も多く存在し、中長期的な支援が予想されます。当団体も引き続き被災地の皆さまに寄り添い、少しでも安心していただける支援活動を続けて参ります。

最後になりましたが、パネリストとしてご登壇いただきました皆さま、誠にありがとうございました。

## Rijicho's column

### 《2月のご挨拶》

年が明けたまさに元日の夕刻、令和6年能登半島地震が起こり、阪神地区でも周期の長い揺れを感じ大変驚きました。お正月番組をご覧になっておられた方も多いと思いますが

が、テレビは一変して、能登地方で震度7の地震がとの報道と、「津波がやってきます。直ちに避難してください。」と連呼するアナウンサーの声に、徒ならぬ事態が起こったことを実感しました。

翌朝1月2日の朝には、数人の理事と事務局スタッフが事務所に集まって今後の対応について相談しました。コロナの影響もあって、ここ何年かは本格的な災害救援活動ができずにおりましたが、今回は迅速かつ長期的な支援を想定して対応しなければとの思いを共有し、早速、1月4日から西宮市内で募金活動を開始するとともに、6日から8日にかけて渥美副理事長をはじめとする先遣隊が能登半島に向かいました。

大変寒い中でしたが、関西学院大学の学生やにしのみや遊び場つくろう会の皆さんをはじめ、会員やボランティアの方々にご協力いただき街頭募金を行いました。口座振り込みでお志を寄せていた方々も含め、誠にありがとうございます。被災地の支援のために大切に活用させていただきたいと思っております。

1月6日から8日にかけての第1陣を含めて、2月2日から4日の第4陣まで都合4回七尾市や輪島市を中心に能登半島に出向きました。この間、(株)フェリシモ様や、(株)高山堂様、(有)山本商事様など、これまでにもお世話になっている企業の皆さんから衣類や和菓子、防災グッズなどをご提供いただき、被災者の皆さんにお届けさせていただきましたが、いずれもその時々のニーズに応じた品々で大変喜んでいただきました。ご協力いただき本当にありがとうございます。

このように多くの方々のご協力やご支援をいただきながら、能登半島地震の被災地支援の活動をスタートいたしました。その活動の様子の一部はホームページのブログなどでご紹介させていただいておりますのでぜひご覧ください。

発災から1か月が経過しましたが、今回の能登半島地震の被害は甚大です。半島部での災害という特殊な事情はありますが、ボランティアの受け入れは遅々として進まず、被災者の皆さんの生活の再建に向けた道筋は未だに先行きが見通せない状況です。微力ではありますが、阪神・淡路大震災から30年近い間に培ってきた知識や経験をもとに、被災地の皆さんに息長く寄り添ってまいりたいと考えておりますので、引き続きご支援ご協力をいただきますようお願いいたします。

(NVNAD理事長 檜垣龍樹)



## 29年目の1月17日・・・

1月17日、阪神・淡路大震災より29年を迎えました。今年も西宮震災記念碑公園に理事長の檜垣と副理事長の渥美、理事の北村、大阪大学の学生さんと追悼式に参列し、現地に行けない方でも追悼式を共有できるようにYouTubeにて会場の様子を生配信しました。会場には多くの方が追悼に来られ、29年が経過した現在でも当時の被災された方達を想い、これから何を行っていくべきかを考える事はとても大切であると改めて感じました。

また10時から、今までNVNADがお世話になってきた皆さまとオンライン交流会を行いました。この度の交流会を通じて繋がり大切さを再認識するとともに、今まで交流を続けてくださった皆さまにこの紙面をお借りして御礼申し上げます。



## 第2回シンポジウム

あれから30年

NVNAD2025プロジェクト

～みんなが助かる社会をめざして～

### 持続可能な災害食

NVNAD理事

奥田和子



日頃私たちの食事は「危ない橋」を綱渡りしていることに気づきます。

食べ物が自国で生産されず外国からの輸入品に大幅に頼っていること、その食べ物が簡単に大量に廃棄処分されていることなどです。しかし世界に目を転じると食べ物がなく飢えた人々が何億人もいます。今回は、私の専門分野である「災害食」に焦点を絞りました。今から約8年前(2015年)、国連サミットで採択された「SDGs」を皆様を紹介し、世界1人当たりの食糧廃棄量を半分に減らそうという呼びかけです。

災害食は、いつか起こるか分からないが災害に備えて備蓄。やがて賞味期限が切れると捨てなければならない「困ったな!」。そんなことにならないように考えましょうというのが今回のテーマです。

さて、捨てないためには新しい再利用の方法を考えましょう。沢山備蓄しているのは行政、企業などです。これらはどのように処理しているのか・・・大変苦勞されています。ネットにはどうしたらいいかという深刻な問いかけを見かけます。きれいごとをいうのは簡単ですが本当は難しいことです。

現在、能登半島では避難所は極寒。電気毛布もこたつもない。そんななか冷たい災害食は体を冷やし「低体温症」になり健康をそこねる。冷たい飲み物と食べ物では食欲もわかない。そんな時こそ温かい食べ物がほしい。現時点で二次災害により亡くなった方の死因の2割が低体温症だという。冷たい食べ物を温かくする方法を発明した山本商事(山本潤一氏)が発明品を携えて講演の後半に登場。発明品は「HOTPLUS・あったかフードボックス」。ボックスを参加者全員に配り、講演と実演。冷たいパックご飯とレトルトカレーがアツアツのご馳走に一変。食べ残して捨てる人はひとりもいない。まさにSDGsの実践です。

\*パックご飯は神明株式会社、レトルトカレーは日本ハム株式会社よりご提供いただきました。



### 真備訪問記

NVNAD理事：萩野茂樹

2023年12月11日(月)、5年ぶりに倉敷市真備町を訪問。2018年7月6日西日本豪雨によって真備町は大きな被害を受けた。病院の屋上から、自衛隊のヘリが入院患者を釣り上げ救助した映像は強く印象に残っている。

当時、私達が真備町に入ったのは被災5日後。この病院の近くのHファミリーのお宅。災害ボランティアセンターもまだ開設されておらず、とにかくお手伝いしたいと歩いていたら、泥だらけの家の前にひとり立っていたのがKちゃん。被災地の真ん中に中学生くらいの女の子がいることは少ないので、これはないお父さんに声をかけて、自己紹介し了解をいただいたあと、早速8人で作業開始。1階の天井まで泥水で水没した後、ほとんど手つかずであったHファミリーのお宅。バットで叩いてようやく開いた裏の雨戸。畳や電化製品、ほとんどの家具を運び出し、屋内を水洗いするなどの作業でそのまま3日間家の片付けをお手伝いした。

コロナ禍に阻まれ延び延びになっていたが、今回ようやく訪問が実現した。「ごぶさた～～」と、はにかみながらのハイタッチでKちゃんと挨拶。今年成人式だという。あの時泥だらけだったHファミリーのお宅は、リフォームで見違えるように。復興後の笑顔に会えるのは、災害ボランティアにとって最高のご褒美。

Hさんの案内で、3メートル嵩上げされた川の堤防を見学。堤防の嵩上げに伴い、川を越えるすべての道路は作り変えられ、付近の風景は一変している。一部の橋はまだ工事が続いている、重機の音が聞こえて来る。他の防災工事も含め、真備町は災害に強くなったのだろう。

また、被災した倉敷市では、防災訓練も大変革。多くの市民が参加できる防災イベントに変身していたので、これも紹介したい。



新設された道路



くらしき防災フェア  
QRコード

## 乳幼児親子防災講座

NVNAD理事：米山清美



阪神・淡路大震災で子どもたちを見てきた体験から、災害時に子どものことを考えることを提唱し、20年前の中越地震からは特にその体験を伝えることを考えてきました。そして被災各地の保育所や子育て支援施設の取り組みをもとに「子どものための防災」に取り組み、2021年にそれらを活かして「乳幼児のための防災アニメ」の原案を作成しました。これはどんな災害時にも全ての大人が子どもを助け、子どものことを考えてほしいからです。



そのことを伝える防災講座を、乳幼児親子や子育て支援者、地域の大人向けに実施してきましたが、この日は西宮市の段上児童館での講座です。能登半島地震の直後ということもあり、十数人の保護者達は熱心に取り組んでいました。私は災害時に子どもを助ける有効なスキルとして「おんぶ」を提唱しています。それは「足元が見える」→「逃げるときに安全」ということからです。この日は珍しく日ごろから子どもをおんぶしている保護者がいましたが、他の保護者達は初めてで、講座のあとも熱心に体験していました。

これからも「非日常(災害時)の心構えは日常から」そして子どもも「自分の身は自分で守ることが出来るように」ということを伝えていきたいと思います。(1月25日 段上児童館にて)

\*この講座は神戸マラソンのご寄付で実施しました

## Vision 1.17

元日に大きな災害が発生しました。犠牲になられた皆様に衷心より哀悼の意を捧げ、被災されました皆様に心からお見舞い申し上げます。

私たちNVNADでは1月2日から対応を開始し、すでに能登半島の現場に何度も出かけてお手伝いをさせていただきました。これも多くの皆様ならびに企業様のご支援の賜物です。改めましてお礼申し上げます。

地元の新聞の1面に「災害ボランティア始動」と大きな見出しが躍りました。「七尾、志賀、穴水で75人」という小見出しがついています。隣には地震発生からの日数を示すカウンターが描かれていて「大震災27日目」となっています。カウントは間違っていない。2日目でもなく、7日目でもなく、27日目。約4週間経って、ようやくボランティア活動が始まったという報道です。

NVNADでは1月6日から現地を訪れました。被災地ではボランティアを求める声がありました。地域の人々が頑張って運営してきた避難所では人が足りず、物資が届いても配る人手がない。避難されてきた入居者のご家族を含めて見守っていた施設の職員は不眠不休で倒れそうでした。給水車からの水を入れた容器は重く、ふらつく高齢者がいらっしやる・・・

支援を待つ人々がいらっしやる中、4週間もの間、ボランティアが行けないことにされるのは極めて異例のことだと思いました。救急救命活動が最優先なのは当たり前です。ボランティアが渋滞の一因となって緊急車両が通れないとい

うのは本末転倒でしょう。また、助けたい一心で被災者の元に押しかけて、あれをしましょう、これをしましょうと言うのでは、かえって被災者を困らせてしまいます(だから前回「ただ傍にいる」というキーワードをご紹介したのでした)。

しかし、だからといって、ボランティアは来ないでほしい、行くべきではないという議論はそのまま受け入れていいでしょうか？東日本大震災の時も自粛という言葉が使われましたが、今回はもっと強い声が聞こえてきました。その結果、4週間後にしようやく災害ボランティア活動が”始動”したのです。

災害時にボランティアを統制して秩序だった活動をしてもらおうとする流れを「秩序化のドライブ」と言ってきました。逆に、災害時に臨機応変に様々な事柄に対応しようとする流れを「遊動化のドライブ」と呼んできました。秩序化のドライブは、「効率よく」支援を展開できるようにみえますが、指示待ちボランティアが生まれたり、想定外のニーズに細やかに対応できなかつたりします。一方、遊動化のドライブは、多種多様なニーズに対応できますが、効率という考え方とは合いません。どちらも一長一短ではあります。しかし、そもそもボランティアは、日頃の効率優先の仕事や生活から離れて支援に駆けつけるわけですから、私は遊動化のドライブこそ大切にしたいと思ってきました。もちろん、現実には2つのドライブがバランスをとりながら動いてきたのでした。

ところが、今回の地震はどうしたことなのでしょう。秩序化のドライブが猛烈に強くはたらきました。そして、それに乗らない人を非難する場面さえあったといえます。そもそもボランティアは誰かの許可を得てするものなのでしょうか？NVNADとしてもしっかりと考えていきたいと思います。

(NVNAD副理事長 渥美公秀)

## 小学校防災訓練

11月12日に鳴尾北小学校、12月3日に西宮市高木小学校にて開催された防災訓練に協力団体として参加しました。地域住民の防災意識の向上を目的として、西宮市が消防局、消防団、上下水道局と連携しての開催で、多くの参加者の方が様々な災害・防災関連のブースを体験されました。当団体も子ども向けに防災紙芝居(防災アニメももたろう)と防災クイズ、防災ダックを企画し、更に大人も子どもも体験できる地震&火事発生時の消火作業を体験できるVR、ARブースを出展しました。

\*西宮市受託事業



## 災害ボランティア養成講座（西宮市社協）

西宮市社会福祉協議会主催の「災害ボランティア養成講座」が毎年開催され、NVNADスタッフが講師として関わらせていただいています。

昨年11月18日（土）には、これまでの講座を受講したメンバーを対象に「ミニ養成講座」が開催され、被災地でボランティアがよく利用する「土のう袋に土を入れて、一輪車で運ぶ」という活動体験をしていただきました。土のう袋にどれくらい土を入れたらいいのか、また、一輪車のバランスを取る難しさなど、実体験を通して色々考えるいい機会になりました。また1月13日（土）には、養成講座受講が初めてのメンバーを対象に、災害ボランティアの基礎知識について、能登半島地震を含め、これまでの被災地での災害ボランティア活動の事例を紹介しながら、グループでの意見交換なども含め一緒に学びました。



11月19日（日）、2回目となる「防災食+（プラス）」を開催しました。

ココロペの紹介に始まり「防災食・災害食」について

説明をさせていただき、簡単に作れるレシピを一緒に作成しました。“美味しく楽しく、防災食を学ぶ”というコンセプトで開催している「防災食+（プラス）」。今回も貴重なひとときをご一緒できたことを嬉しく思います。ご参加いただいた皆さま、どうもありがとうございました。



## 防災パーク@そねちか

11月25日（土）、26日（日）の二日間、曾根崎地下歩道（JR北新地

駅直結）にて、南海トラフ巨大地震や高潮災害を想定した防災啓発イベント「防災パーク@そねちか」を開催しました。防災ウォークラリーや、避難所アイテム等の体験コーナーや展示ブース、ペット防災ブース、停電時の避難体験ブース、多種多様な災害食コーナーや食品を温める「あったかフードボックス」を用いた実演コーナーなどを出展し、体験&参加型のイベントとしました。今回の防災イベントにより、災害時に助かる行動に繋がる一助になれば幸いです。



## 小学生防災マップコンクール

12月4日（月）損保会館（東京）にてマップコンクールの本審査会が開催されました。全国の小学校・

子ども会・児童館など658団体から1,708作品が寄せられ、いずれも力作が揃う中、当団体も「わがまち再発見賞」として、北海道奥尻町立青苗小学校の「青苗小3・4年ぼうさいキッズ」を選ばせていただきました。津波対策を主にした防災マップで、避難所や避難路、水門や防潮堤などを良く調べ、オリジナルの津波あいことばや顔写真入りの感想など、分かりやすくまとめられていました。



## 久崎市

12月24日（日）、4年ぶりに「久崎市（くざきいち）」というお祭りが開催され、チャコネットの学生メンバーと一緒に佐用町に行ってきました。コロナが流行している間、地元のイベントはすべて中止となっていたので、久しぶりのイベント開催ということもあり、地元の方々と大賑わいでした。我々も、2009年の水害時より交流を続けている方々とも久しぶりにお会いすることができ、とてもうれしかったです。

## OOS協定シンポジウム



1月29日（月）、OOS協定シンポジウムが大阪大学吹田キャンパスにて開催され、大阪大学と協定を結んでいる当団体も参加させていただきました。第1部では協定の紹介や参加団体の紹介などが行われ、第2部では協定を結んでいる24団体のうち20以上の団体の皆さんと、いくつかのグループに分かれてワークショップが行われました。異業種の皆さまと横繋がりができ、親交を深められる大変良い機会となりました。OOS協定関係の皆さまに御礼申し上げます。

**OSAKA MARATHON 2024 2月25日(日) みんなで声援を送りましょう!!**

来たる2月25日(日)、「大阪マラソン2024」が開催されます。  
 当団体をパートナーに選んでくださったチャリティーランナーさんを是非とも一緒に応援してください。

- ①Hetsujiさん、②大塚黄司さん、③ショットバーアイラさん、④ノノウさん、⑤すみおさん、⑥青木裕士さん、⑦北のくまモン先生、⑧山本哲也さん



**Nうごき**

NVNADの活動をお知らせするコーナーです。(2023年11~2024年1月)

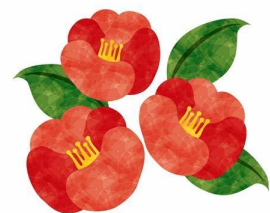
|     |        |                               |
|-----|--------|-------------------------------|
| 11月 | 11日    | NVNADシンポジウム第2回(西宮市)           |
|     | 12日    | 鳴尾北小学校防災訓練参加(西宮市)             |
|     | 17日    | ニュースVol.136発行                 |
|     | 18日    | 災害ボランティアミニ講座(西宮市)             |
|     | 19日    | ココロープ「災害食調理実習」(西宮市)           |
|     | 25~26日 | 防災パーク@そねちか(大阪市北区)             |
| 12月 | 3日     | 高木小学校防災訓練参加(西宮市)              |
|     | 4日     | 第20回小学生ぼうさい探検隊本審査会(東京都)       |
|     | 10日    | 災害ボランティア養成講座(大阪府岬町)           |
|     | 11日    | 真備町訪問(岡山県倉敷市)                 |
|     | 19日    | トルコ地震報告会(西宮市)                 |
|     | 21日    | 甲東地区防災講演会(西宮市)                |
|     | 24日    | 久崎市(兵庫県佐用町)                   |
| 1月  | 2日     | 令和6年能登半島地震事務局内ミーティング(西宮市)     |
|     | 4~8日   | 街頭募金活動(西宮市)                   |
|     | 6~8日   | 能登半島地震先遣隊第一陣(石川県)             |
|     | 13日    | 災害ボランティア養成講座(西宮市)             |
|     | 15~16日 | 能登半島地震先遣隊第二陣(石川県)             |
|     | 16日    | 小田地区防災講演会(兵庫県尼崎市)             |
|     | 17日    | 1.17事業:追悼式生中継・被災地オンライン交流会     |
|     | 20日    | NVNADシンポジウム第3回・能登半島地震報告会(西宮市) |
|     | 25日    | おやこ防災講座(西宮市)                  |
|     | 26~28日 | 能登半島地震先遣隊第三陣(石川県)             |
|     | 29日    | OOS協定シンポジウム(大阪府吹田市)           |



**Nごよみ**

今後の予定・講演などのスケジュール

|    |      |                       |
|----|------|-----------------------|
| 2月 | 2~4日 | 能登半島地震先遣隊第四陣(石川県)     |
|    | 3日   | 災害ボランティア養成講座(西宮市)     |
|    | 7日   | 防災授業(兵庫県丹波市)          |
|    | 8日   | おやこ防災講座(西宮市)          |
|    | 9日   | 災害ボランティア養成講座(大阪府門真市)  |
|    | 17日  | 災害ボランティアセンター運営訓練(西宮市) |
|    |      | ニュースVol.137発行         |
|    | 22日  | 防災講座(東大阪市)            |
|    | 25日  | 大阪マラソン2024(大阪市)       |
| 3月 | 2日   | 防災イベント(西宮市)           |
|    |      | 第3回子ども防災クラブ(西宮市)      |
|    | 3日   | 西宮市&岩手県野田村オンライン交流会    |
|    | 15日  | 防災講座(兵庫県尼崎市)          |
|    | 31日  | 桜まつり(兵庫県佐用町)          |



## ～会員・寄付者・募金者のみなさま～

(2023年11月1日～2024年1月31日)

### ■会員のみなさま

個人正会員：「継続」山口元

個人賛助会員：「継続」中川純子、秋山洋子、御内眞理（ふぁんきい☆かんぱに一）

### ■寄付者のみなさま ※ココロープ宛のご寄付も含まれます。

古塚純枝、風雪月花Snow、ひでぼ一、深山操江、高石鉄士、井口雅司、掛水須美枝  
鶴田美紀代、山本佳世子、御内眞理（ふぁんきい☆かんぱに一）、松木優志、山本哲也  
石田賀陽子、松下真由美、川口京美、片岡志喜、青木裕士、田沼純雄、増川拓、清水泰生  
李爽、稲田和彦、大塚黄司、戸口太郎、朝井朋子  
株式会社日本触媒、有限会社林電工、社会福祉法人光朔会オリンピック、ヤフー株式会社  
近畿ろうきんNPO寄付システム契約者の皆様、ソフトバンクかざして募金（寄付者）の皆様

### ■募金者のみなさま

西村桂子、花田裕二、茨木浩美、岡秀和、西村樹、濱田美樹、吉谷智美、長谷川計二  
柳村和子、上倉清、田中通子、北村久美子、藤井和子、永田素彦、板羽潤、吉川智子  
山内正子、乾陽亮、池田晴美、鶴田美紀代、星野典子、太刀掛俊之、新宅太郎、鈴木憲一  
渡邊一正、木下和寛、内井佳奈、山本佳世子、ハツ塚一郎、ハツ塚としえ、萩原美紀  
友野正人、河野昌弘、熊野尚子、岩國正史、河合嘉、中井亜沙美、滝沢正彦、滝沢直子  
深山操江、青木邦博、渡邊敬逸、渡部慶造、東尾信子、多田、舟知正、千坂敦子、人見茜  
河野加代、魚島侑子、矢守恭代、中井佳誉子、荒銀昌治、藤枝健一、林百合子、寶田玲子  
板東由佳恵、田守美智子、外館真知子、遠竹泰、掛水須美枝、戸口始、戸口裕子、朝井利彦  
芦屋こぼとぼっぼ保育園、芦屋こぼと保育園、アザリー飯田フットボールクラブ  
整理収納サポートアント、阪大DE&Icafe、ぶんぶんブック  
けんむん、オノケイコ、オクダヨウコ、ギントリン、ミナトカオル、ミヤジユキ、エブロン  
サキハマキミユキ、イシダカズヒコ、トウドウチハル、ハツセカズシゲ、ウブカタレイコ  
オクダイラミワコ、キクチリョウタ、オザワマナミ、オオキドハルミ、フナダタネヒロ  
アリタヒトミ、カワニシチカコ、ノセカズエ、ナルワユカ、ワダユウコ、イシハラトモキ  
タカタチエ、ミヤマエトモジガンバ、カドモトセイソウ、ナカスマサハル、サトウモモコ  
キクチケイコ、オノヤスコ、マエダタク、オオゾノシンヤ、イシイタカノリ、アリガフミコ  
シライシトシアキ、フクモトキヨハル、イシハラトモキ、ヤマモトシオリ、ササキナオコ  
ヨコガクサキコ、シマダアキラ、ウキタノブアキ、ヒラオカフサオ、ナガミネナオコ  
コタニエミ、アダチリエ、フクオカダイスケ、ミズグチシマイ、タケゾエアヤノ  
ベンゴシハウジンホツ、街頭募金にご協力くださった皆様

### ■ご協力いただいたみなさま 株式会社フェリシモ、有限会社山本商事、株式会社高山堂 株式会社新保哲也アトリエ、谷矢製餡株式会社、日本労働組合総連合会大阪府連合会

(順不同、敬称略)

ご支援ありがとうございました。

なお、お振込みくださった方につきましては、振込名でご紹介させていただきましたのでご了承下さい。

### 編集後記

この度の能登半島地震では、道路や水道管に甚大な被害が発生し、市民生活だけではなく、人命救助や工事関係者などにも大きな影響が出ています。また、避難所では外部のボランティアの姿はなく、これまでの被災地の状況とは様子が違うことが多いと感じます。「同じ災害は二つとない」と言われますが、我々も過去の経験や教訓だけに頼ることなく、被災された方や被災地の声をよく聴き、しっかりと受け止めながら支援活動に取り組んでいきたいと思えます。(H.T)

認定特定非営利活動法人 日本災害救援ボランティアネットワーク [NVNAD]

〒662-0853 兵庫県西宮市津田町3-43 TEL 0798 (34) 9011/FAX 0798 (34) 9022

http://www.nvnad.or.jp/ 発行人：檜垣龍樹